

児童・生徒の現状・課題

・昨年度は、自分との関わり(前向きに学ぶ・やり遂げる)と他者との関わり(協働・相談)を軸とした「大蔵の自己効力感」の育成を重点目標に掲げ、授業改革に取り組んできた。教員側の意識・行動は大きく変容し、意図的な働きかけが着実に日常化した。また、日常的な相互授業観が活性化し授業力の向上に繋がっていると考えられる。一方で、児童生徒調査の結果では、困難や失敗に直面した際の「粘り強さ」については依然として大きな課題が残っていると見える。



学び続ける力を育むための重点目標

○自分との関わり(前向きに学ぶ・自分の考えをもつ・やり遂げる)と他者との関わり(協働する・相談する)や教材への関わり方において育まれる能力を「大蔵の愛され力」と設定して重点目標とする。



具体的な手だて①

どの教科においても、学習のゴールや単元で身につけたい力を単元の初めに示し見通しをもたせる。また、学びの手引きや自由進度学習などを活用して児童が学習課題や学習過程を選択できる場面を設定する。(挑戦・課題調整力)

具体的な手だて②

協働学習において、教師は児童と児童を繋げていく言葉かけを意図的におこなう。振り返りの場面では、教師の問いかけによる気付きと内省を促し、児童が互いに学びあい・認め合いながら成長できる場面を設定する。(協働・相談)

具体的な手だて③

見通す・選択する場面においては、児童の決定や価値観を尊重して、承認と価値づけを最優先する意図的な声かけをおこなう。どのような取り組みに対しても否定をせず、良い所を見つけて励ますことで児童が安心して学習に取り組める環境を作り出す。(粘り強さ・やり遂げる・ポジティブ)



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

・日常的に相互授業観察(ふらっとイン)をおこなっている。放課後にミニ協議会(フラットーク)を設定し意見を交換することで教員全体の授業力向上を目指す。
 ・授業改革につながる提案や専門性の高い教員の実践を共有する研修の時間(THE タチバナシ)を設けている。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(6月)	結果(1月)
①他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりすることは、自分の力をのばすのに役に立っている。	90.2	94	
②取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など、学び方を自分で選び、学習をすすめることができる。	84.5	90	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(6月)	結果(1月)
①【選択する場面】授業では、学習課題や学習過程等、児童・生徒が学び方を選択する場面を設定している。	96.8	100	
②【振り返る場面】授業では、学習目標の達成や学び方等について振り返る場面を設定し、児童・生徒が達成感を味わったり、次の目標をもったりできるようにしている。	96.8	100	

総括(6月)

昨年度の教員調査では、ほとんどすべての項目について肯定的回答の割合が100%を達成しており、教員の意識が大きく変化した1年となった。本年度は、異動によって新たに大蔵のメンバーとなった教員も授業改革に加わり、新しい視点からも本校の授業改革をより良いものにしていこうという雰囲気が高まっている。10年後の大蔵っ子が、誰からも愛され、地域や社会で活躍できる人材になることを願い保護者・地域・学校が三位一体となって「大蔵の愛され力」を育てていくことを重点目標とする。児童が「自分は愛されている」という安心感の中で「自分も愛する」「他者も愛する」ことのできるよう、私たち自身も大きな愛をもって支援を継続していく。

総括(1月)